

福山大学 共同利用センター 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

共同利用センター

中長期計画	「福山大学共同利用センター」は、福山大学学則第3条の5に則り設置されており、「福山大学共同利用センター規則」第1条の設置の趣旨、第2条に示すように、学生、教職員の教育研究を全学的視野に立って支援する目的で設置されている。この目的を達するため次の事項について管理・運営・充実に努める。 1)大型教育研究機器の共有化と活用 2)ICT関連設備の管理とICT活用教育・研究・事務遂行の全学的支援と啓発活動 3)プロジェクトラウンジを中心とする全学ラーニングコモンズの運営・活用 4)化学物質リスクマネジメントにかかる全学的支援 5)福山大学ホームページ運用に関する支援

2018年度

共同利用センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	本センターは、福山大学学則第3条の5に則り設置されており、使命・目的は、共同利用センター規則に明確に示されている。なお、中長期目標の3)の全学のラーニングコモンズの運営・活用については、薬学部新棟計画との関連で検討課題として残されている。
年度目標	1. 教育活動や管理運営の情報化について、調査、実験、啓発、広報活動を継続する。 2. 新ゼルコバの運用が滞らないように支援を行う。 3. セレッソ、Office365等のICTを活用した教育の実践について、指導、支援、研究を行う。 4. 情報セキュリティの向上のため、全学レベルでの教職員、学生を対象とした啓発活動等を継続する。 5. 学内基幹LANの管理運営に従事するとともに、学内の種々のICTサービスの支援を継続する。 6. ホームページの更新業務を滞りなく行う。 7. 自分未来創造室と連携してプロジェクトラウンジの管理運営に努め、ラーニングコモンズとしての機能向上を目指す。 8. 共同利用機器の管理運営、および、教職員、社会への活用促進を図る。 9. 作業環境管理の定期的な実施と、運営方法の見直しにより効率化を図る。
年度報告	1. 全学での情報端末の必携化の推進、ICT活用教育の開発と推進専門部会の活動、セレッソの活用の推進、教職員データキャビネット活用の推進など、情報化を推進した。 2. 新ゼルコバの運用を行い、トラブルもなかった。 3. セレッソ、Office365を利用したICT活用教育、入学前教育の実践の支援を行い、満足すべき結果を得た。 4. ICTのしおり、情報セキュリティパンフレットなどを準備し、啓発に努めた。ICTサービスにおいては、本学のICTシステムの状況についての月報を配信することとし、情報公開を進めた。さらに、福山大学安否確認システムの構築に寄与した。 5. 学内基幹LANの保守管理、その他のICTサービスについて全うした。 6. ホームページの更新業務を滞りなく行った。 7. プロジェクトラウンジの管理運営に努め、利用推進を図った。 8. 共同利用機器の適切な修理、配置の変更など、管理運営、教職員への活用促進を図り目標を達成した。 9. 作業環境管理の運営方法を確立し、年2回の測定を適切に実施した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②情報セキュリティパンフレット・ICTのしおり ③2018年度作業環境報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	他大学の共同利用センターと比較して、極めて多様な目的、業務が設定されていることを明示している。
年度目標	中長期計画に従い、特に以下を重視しあらゆる面において、全学的な利活用を図るための施策を進める。 1. ICTサービス業務の効率化によって、支援体制を充実させる。 2. 定められている共同利用機器以外の研究機器についても情報の共有化を進める。 3. 作業環境分析への関連学部学科教員の参加を促すことで、安全に関する啓発を進める。
年度報告	1. ICTサービス業務の体制整備を進めることで効率化を図り、支援体制を充実させた。 2. 共同利用機器を含めた研究機器について情報の一元化を進め、機器リストをほぼ完成させた。 3. 作業環境分析に関連学部学科教員に参加してもらい、安全に関する啓発にも寄与することができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②2018年度作業環境報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	ICTの活用推進、研究機器の計画的な更新は、社会の変化を常に念頭において検討しているが、研究機器の社会連携利用の体制がまだ整っていない。
年度目標	1. 学内でのICT環境が教育研究体制の維持発展に十分であるかを検討し、必要であればその結果を更新年次計画に反映させる。 2. 社会連携センターとの連携で、共同利用機器の学外への貸し出しに関する規程を定める。 3. 作業環境分析に関する法令の変更などがあれば、研修に参加し、情報の更新を図る。
年度報告	1. 学内でのICT環境について現状を評価し、今後数年に関するICT基本計画を作成した。 2. 共同利用機器のうち、一部について学外への貸し出しに関する規程づくりを検討し、原案を作成した。 3. 作業環境分析に関する研修に参加し、情報の更新を図り、学内の分析作業に反映させた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②福山大学ICT基本計画 ③2018年度作業環境報告書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	本センター活動が、教職員に重要であることは認知されていると考えているが、必要な情報が全教職員に行き届いているとは言い難い。
年度目標	1. 教職員への情報伝達が確実に行われるよう本センター運営委員会の委員の構成を学科あたり各1名に変更したので、その効果を検証する。 2. 薬学部新棟計画に関連する共同利用機器などの整理統合や共通機器の利用方法についての情報発信に努める。 3. 作業環境分析の結果を運営委員会で適切に報告し、安全に関する意識向上を図る。
年度報告	1. 本センター運営委員を通じて、本センターの取り組みが各教職員および学生にスムーズに伝わるようになった。 2. 薬学部新棟計画に関連する共同利用機器などの整理統合や共通機器の利用方法について、本センター運営委員を通じてスムーズに情報発信できた。 3. 作業環境分析の結果を運営委員会で適切に報告し、安全に関する意識向上を図ることができた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	本センターの活動は、ホームページを通じて学内外へ公表している。
年度目標	1. ICTサービスに関する情報発信(更新方法、セキュリティ情報など)を速やかにホームページで公開する。 2. 共通機器に関する情報の更新と各機器にアクセスしやすいホームページに変更する。 3. 作業環境分析に関するホームページを作成する。
年度報告	1. ICTサービスに関する情報発信を速やかにホームページで公開した。また、情報セキュリティに関する情報を速やかに学内へ公開した。 2. 共通機器に関する情報の更新と各機器にアクセスしやすいホームページとなるよう修正を行った。 3. 作業環境分析に関するホームページを作成し、活動を学内外へ公表した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①共同利用センターホームページ ②情報セキュリティに関する学内へのアラートメール
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	共同利用センター規則に明示してい使命・目的をもとに、ICT関連機器や研究機器の更新計画策定などに反映している。
年度目標	現状を維持し、中長期計画への反映に努める。

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	本センターは本学の三つのポリシーを下支えするため、ICT機器や研究機器の整備を行っている。
年度目標	現状を維持し、三つのポリシーの下支えに努める。
年度報告	スキャナータイプ画像解析装置を私学助成補助金に申請して採択され、機器整備を充実させることができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	本センターは、教育研究の基盤となるものを整備する組織であり、他の組織との整合性は取れている。
年度目標	現状を維持しながら、情報技術などの急激な変化によっては、必要に応じ組織の改変を検討する。
年度報告	特に変更等の必要はなく、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生**領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

中長期計画	
--------------	--

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	

改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	ICT機器の取り扱いにおいて、ネット利用によるハラスメントを発生させないよう、啓発している。
年度目標	現状を維持しつつ、情報セキュリティに関する情報発信とともに、リテラシー教育の充実を支援する。
年度報告	情報セキュリティに関する情報発信を積極的に行い、リテラシー教育の充実に貢献できた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	7号館2階のプロジェクトラウンジについて、大学教育センターの協力を得て管理・運営している。1階の共同機器室については、関連学部の教員の協力を得ながら、利用の予約方法を確立し、解錠・施錠の管理を行っている。
年度目標	現状を維持しながら、以下を進める。 1. プロジェクトラウンジのブラインド設置などを検討し、利用しやすい環境作りを進める。 2. 共同機器室の利便性を高める運営方法を検討する。
年度報告	1. プロジェクトラウンジのブラインドおよび照明設置を改修し、利用しやすい環境を作ることができた。 2. 共同機器室の機器の充実と広報を進めた結果、特に年度末にかけ多く利用してもらうことができた。 3. 物理系工作室を防犯対策を施した薬品管理室へと改修を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	本センターはICT教室や一部実験施設を管理する目的で設置されているので、それらの施設の適切な利用を各学部学科にお願いしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	ICT教室および共同機器室などの本センターが管理している施設は適切に使用された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	現在、関係の施設においては、ほぼ整備が終了しており、維持管理を重点的に行なっている。プロジェクトラウンジにおいては、遮光や照明の整備を申請している。
年度目標	現状を維持しながら、プロジェクトラウンジにおける遮光や照明の整備を進める。
年度報告	プロジェクトラウンジのブラインドおよび照明設置を改修し、利用しやすい環境を作ることができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	ICT教室においては、数年に及ぶ年次計画をもとに更新を行い、適切に管理している。また、プロジェクトラウンジにおいては、授業などで利用する際の予約で人数などの確認をするなど、配慮を行っている。
年度目標	現状を維持しながら、ICT教室についてはBYODの推進状況を見て更新計画の適切な変更を検討する。
年度報告	ICT基本計画を作成して今後の整備計画を定めた。また、来年度は全学の共同利用の目的でICT教室を1教室整備することとなった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②福山大学ICT基本計画
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	7号館には、入り口付近にAEDが設置され、消化器も適切に配置されてる。また、非常口の位置も示されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	本センターの作業環境管理部門は劇物・危険物の管理に関わる部署であるので、本センター内の施設においては、鍵の管理の徹底などおこなっている。また、関連学部学科と共同で薬品管理システムの設置を検討中である。
年度目標	現状を維持しながら、薬品管理システムの構築の検討を進める。
年度報告	薬品管理システムの設置は継続して検討することになった。7号館に薬品管理室を設置することとなり、外部からの侵入できないように施設の改修を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	本センターの主要施設である7号館は2階建で各部屋から戸外へのアクセスは容易なため、非常口の位置についての掲示はしているが、それ以外は行っていない。
年度目標	研究機器の充実により、共同機器室の利用増加が見込まれるので、緊急時の対応マニュアルの作成を検討する。
年度報告	研究機器の利用について、安全管理も含めて利用説明会等を行ったが、緊急時の対応マニュアルの作成には至らなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	本学の危機管理体制構築に合わせて、7号館内での緊急対応マニュアル作成を行う。

2018年度

共同利用センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

基準3. 教育課程**領域：卒業認定、教育課程、学修成果**

2018年度

共同利用センター

中長期計画	
2018年度	共同利用センター
中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	

改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
d	⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	

年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

共同利用センター

中長期計画	共同利用センターは基本的には学生、教職員、学外企業へのサービスを使命としている。2018年度は、センター長と副センター長2名のもと、専任教員3名(2018年4月時点では、教授1、講師1、助教1)、兼任教員7名を配置する。加えて、本センターの運営のために共同利用センター運営委員会が設置されており、各学科および入試広報室などの事務組織などから選任された運営委員で組織されている。本センターでの教学マネジメントの発揮、また、各種研修や研究支援について次の事項について充実に努める。 1) 本センターの活動が確実に教職員に伝達される仕組みの構築 2) 教職員の意見などが本センターの活動に反映されやすい仕組みの構築 3) 専任教員のSD研修などへの参加の推進と研修効果の検証 4) 教職員用データキャビネットの活用の支援体制の構築 5) 教育研究に関する共通機器の利用の支援体制の構築 6) 作業環境管理において、化学物質リスクマネジメントにかかる研修の実施 なお、本センターの教員組織について、現状では独自に定めることは困難であり、学長室企画会議、法人において全学的視野で適切に計画・立案・対処することとなっている。

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長の意向は、本センター長を通じて、確實に本センターに伝達されており、リーダーシップは発揮されている。また、本センターにおいては、ICTサービス部門、教育・研究機器設備部門、作業環境管理部門のそれぞれの部門において検討されたことを部門長がまとめ、それらについてセンター長が決算するという仕組みとなっている。
年度目標	現状を維持しながら、センター長と副センター長や部門長との間で緊密な情報交換を行う体制を確立し、業務の停滞が起きないようにする。
年度報告	現状を維持し、センター長と副センター長や部門長との間で緊密な情報交換が行われ、業務は適切に行われた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	ICTに関する業務で一部、業務が集中する状況にあるが、それ以外は、適切に役割・権限が分散し、実施されている。
年度目標	1. 業務適正化のために、本センター運営委員会の構成員が今年度変更されたので、その効果を検証する。 2. ICT関連の業務の役割分担の適正化を図る。
年度報告	1. 本センター運営委員を通じて、本センターの取り組みが各教職員および学生にスムーズに伝わるようになった。 2. ICT関連の業務の役割分担を適正に行い、これまで以上にスムーズに業務が行われるようになった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員の配置と役割は明確であるが、用度課および工学部・生命工学部事務室の職員の兼務に頼っているため、特にICT関連の業務の拡大により、不足を感じている。
年度目標	現状を維持しながら、ICT関連業務については人員が増える予定なので、役割分担の適正化で職員の負担軽減を図る。
年度報告	ICT関連業務について1名の増員により、昨年度よりも職員の負担が軽減された。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目 4-3. 職員の研修	
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	本センター独自の取り組みは行っていないが、学内で開催される研修には参加を推進している。
年度目標	学内で開催される研修への参加を推進することで、現状を維持する。
年度報告	学内で開催された研修への参加の推進、および、2回の独自のSD研修(ICT関連)を行い、職能の向上を図ることができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②共同利用センター主催セキュリティ講習会(FD・SD)実施記録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	本センターは、ICTの活用を推進する部署であるので、Office365、ゼルコバなどの活用を推進している。
年度目標	現状を維持しながら、特に新ゼルコバの利用の支援、教職員用データキャビネットの利用の支援を図る。
年度報告	新ゼルコバの利用の支援、教職員用データキャビネットの利用の支援を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②Karin利用規則
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目 4-4. 研究支援	
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	専任教員については確保されているが、本学ホームページやOffice365導入に関する管理運営など、ICT関連業務の増加により、関連教員への負担が増加する状況にある。
年度目標	現状を維持する。ICT関連業務については人員が増え、業務分担が軽減される予定である。
年度報告	ICT関連業務について人員が1名増え業務分担が軽減された。研究施設等の研究環境について現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	福山大学「研究関連ガイドブック」をもとに、適切に運用されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	福山大学「研究関連ガイドブック」をもとに、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学「研究関連ガイドブック」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	共同利用センターは機器管理に関する予算や作業環境分析に必要な予算は計上しているが、直接的な研究費は分配されていない。しかしながら、共同機器などの利用に関する制限はない。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	共同利用機器などを適切に活用し、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①機器分析室内機器使用簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	福山大学「研究関連ガイドブック」をもとに、適切に周知されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	福山大学「研究関連ガイドブック」をもとに、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学「研究関連ガイドブック」
次年度の課題と改善の方策	

基準6. 内部質保証**領域：組織体制・自己点検・評価、PDCAサイクル**

2018年度

共同利用センター

中長期計画	共同利用センターは基本的には学生、教職員、学外企業へのサービスを使命としている。そこで行われている活動を全学で共有し、運営の適正化のために各部局から委員を含めた共同利用センター運営委員会を運営する組織体制を敷いているが、必ずしも教職員全体に浸透しているとは言い難い。自己点検・評価については、共同利用センター自己点検評価委員会を中心に組織的且つ定期的に点検評価する体制を構築しており、その報告をもとに、計画の見直し、改善を図っているが、評価体制が必ずしも十分ではない。そこで次の事項について努める。
	1)運営委員会での情報が全教職員が共有できる体制を確立する。 2)学生および教職員がICTについての活用状況、利用に関する意識などをIRなどを活用してデータ収集、分析することで、本学で必要なICT環境の整備に役立てる。 3)ICT機器や研究機器の管理・運営および化学物質リスクマネジメントを行う機関として、コンプライアンスの遵守を徹底する体制を確立する。

2018年度

共同利用センター

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	共同利用センター自己点検評価委員会を設置し、本自己点検評価書の作成、運営委員会での報告と改善を促す体制を確立している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	共同利用センター自己点検評価委員会および共同利用センター運営委員会において本自己点検評価書の作成を行うことで、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②本自己点検評価書 ③福山大学共同利用センター自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

共同利用センター

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	共同利用センター自己点検評価委員会による本自己点検評価書の内容が運営委員会で報告されるので、教職員が共有する体制となっている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	本自己点検評価書の内容を運営委員会で報告し、教職員が共有することで現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②本自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	現在は、ICT環境の整備、教育研究機器の整備、および、作業環境分析法の確立に注力しており、共同利用センターとしての調査・データの収集と分析は行なっていない。
年度目標	1. 学生および教職員のICTについての活用状況、利用に関する意識などのデータ収集と分析について検討する。 2. 学生および教職員の薬品リスクについての知識や意識のデータ収集と分析について検討する。
年度報告	1. 学生および教職員のICT活用状況についての基礎的データの収集、および、専門部会による授業等での活用状況についてのデータ収集を行ない、解析の途中にある。 2. 学生および教職員の薬品リスクについての知識や意識のデータ収集、分析については検討を継続している。
達成度	B
改善課題	学生および教職員の薬品リスクについての知識等に関するデータ収集、分析の検討
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	学生および教職員の薬品リスクについての知識等に関するデータ収集、分析の実施を検討、実施する。

2018年度

共同利用センター

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	共同利用センター自己点検評価委員会による本自己点検評価書をもとにしたPDCAサイクルを確立しているが、現時点では機能性の検証はしていない。
年度目標	PDCAについての仕組みは維持しながら、その機能性を図る方法の検証を行う。
年度報告	PDCAについての仕組みは維持したが、その機能性を図る方法については検討を継続している。
達成度	B
改善課題	PDCAの機能性を図る方法を確立し検証する。
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	PDCAについての仕組みを維持しながら、その機能性を図る方法を確立し検証を行う。
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	全学的な基準に則って、運営委員会、部門会議で意識の徹底を図っているが、特に体制の整備は行なっていない。
年度目標	全学的な基準に則った今の仕組みは維持しながら、本センター独自の体制の整備を検討する。

年度報告	全学的な基準に則った今の仕組みを維持した。
達成度	B
改善課題	本センター独自の体制の整備
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	本センター独自の体制の整備を検討し、周知を図る。

2018年度

共同利用センター

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

共同利用センター

中長期計画	共同利用センターは基本的には学生、教職員、学外企業へのサービスを使命としている。福山大学ブランディング戦略における研究活動においても研究機器の管理・運営、ICTを活用した研究データなどの管理など下支えする役目を持つ。この役目を達するため次の事項について努める。 1)大型教育研究機器の管理と適正な活用の推進 2)教職員用データキャビネットの研究利用する際の規程の作成と適正な運用 3)薬学部新棟での共同利用センター施設に関する適切な設計計画および移転後の運営 4)研究活動での化学物質リスクマネジメントに関する支援

2018年度

共同利用センター

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	❶ 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	ブランディングに関する共通機器は共同利用センターの管理のもとにあるので、その利用促進について教職員および教職員を通じて学生に周知している。
年度目標	ブランディング戦略に関わる機器分析等を利用した研究の支援を積極的に行う。
年度報告	ブランディング戦略に関わる機器分析等を利用した研究の支援を積極的に行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②機器分析室の機器使用簿 ③機器利用説明案内のメール等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	❷ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	ブランディング研究に関連する共同利用機器の整備とそれらの地域への公開を検討している。
年度目標	1. ブランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行う。 2. 専任教員と備後地域の企業などとの共同研究を推進する。 3. 共同利用機器の一部について学外者の利用を検討する。

年度報告	1. ブランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行つた。 2. 専任教員と備後地域の企業との共同研究等を模索し、一部研究を実施した。 3. 共同利用機器の一部について学外者の利用のための規則づくりを進めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度第3回・第4回共同利用センター運営委員会議事録 ②地元企業と共同研究を模索するメールおよび解析データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	ブランディング研究に関する共同利用機器を整備し研究を支援することで、研究活動を通じて地域で活躍できる人材育成に寄与している。
年度目標	現状を維持しながら、ブランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行う。
年度報告	現状を維持しながら、ブランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行なった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度第3回・第4回共同利用センター運営委員会議事録 ②機器分析室の機器使用簿 ③機器利用説明案内のメール等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのように取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	ブランディングに関する共通機器の整備を中心としており、現時点では取組もなく、検証もしていない。
年度目標	1. ブランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行う。 2. 専任教員と備後地域の企業などとの共同研究を推進する。
年度報告	1. ブランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行つた。 2. 専任教員と備後地域の企業との共同研究等を模索し、一部研究を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度第3回・第4回共同利用センター運営委員会議事録 ②地元企業と共同研究を模索するメールおよび解析データ
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	プランディングに関する共同利用機器の整備を行うことで、研究の支援を積極的に行い、間接的に学生の支援を行っている。また、ICTのしおり等を通じて、情報倫理など、社会人、職業人として必要な知識を提供している。
年度目標	現状を維持しながら、成果についての検証の仕組みを検討する。
年度報告	現状を維持しながら、成果についての検証の仕組みの検討を継続している。
達成度	B
改善課題	成果についての検証の仕組みの検討
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	成果について直接的に検証することは難しいが、間接的にでも検証する仕組みを検討する。
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	プランディングに関する共通機器の整備を中心としており、現時点では取組もなく、検証もしていない。
年度目標	1. プランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行う。 2. 専任教員と備後地域の企業などとの共同研究を推進する。
年度報告	1. プランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行つた。 2. 専任教員と備後地域の企業との共同研究等を模索し、一部研究を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録 ②地元企業と共同研究を模索する資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	プランディングに関する共同利用機器の整備を行うことで、研究の支援を積極的に行い、間接的に学生の支援を行っている。また、ICTのしおり等を通じて、情報倫理など、社会人、職業人として必要な知識を提供している。
年度目標	現状を維持しながら、成果についての検証の仕組みを検討する。
年度報告	現状を維持しながら、成果についての検証の仕組みの検討を継続している。
達成度	B
改善課題	成果についての検証の仕組みの検討
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	成果について直接的に検証することは難しいが、間接的にでも検証する仕組みを検討する。

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	プランディングに関する共通機器の整備を中心としており、現時点では取組んでいない。
年度目標	1. プランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行う。 2. 専任教員と備後地域の企業などとの共同研究を推進する。
年度報告	1. プランディング戦略に関わる研究の支援を積極的に行った。 2. 専任教員と備後地域の企業との共同研究等を模索し、一部研究を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	現時点では資金の獲得はしていない。
年度目標	専任教員と備後地域の企業などとの共同研究を推進することで、外部資金の獲得を目指す。
年度報告	備後地域の企業との共同研究等を模索し、一部研究を実施したが、外部資金獲得には至っていない。
達成度	B
改善課題	外部資金の獲得
根拠資料	①地元企業と共同研究を模索する資料
次年度の課題と改善の方策	地元企業と検討した共同研究を実施に移し、外部資金の獲得を目指す。
点検項目	③ 福山大学プランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	プランディングに関する共通機器の整備を中心としており、発表していない。
年度目標	専任教員と備後地域の企業などとの共同研究を推進し、得られた結果を論文などで発表することを目指す。
年度報告	備後地域の企業との共同研究等を模索し、一部研究を実施したが、成果発表には至っていない。
達成度	B
改善課題	共同研究の確立と成果の発表
根拠資料	①2018年度共同利用センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	地元企業と検討した共同研究を実施に移し、社会に発表することを目指す。